

生ごみの減量化と堆肥化



生ごみは、家庭から出るごみの中でも大きな割合を占めています。食材を使い切る、食べ残しをしない、水をしっかりと切るなどして減量化にご協力ください。

生ごみ堆肥を販売しています

美唄市生ごみ堆肥化施設において、美唄市内で回収した生ごみと水分調整材であるもみがらを混合して、2～3か月発酵させて製造しています。家庭菜園などにご利用ください。（1袋あたり4～5坪）



「エコマミィー」
生ごみ堆肥



成分表

窒素全量	2.4%
リン酸全量	1.0%
加里全量	1.3%
炭素窒素比	13

販売方法

袋入り堆肥(1袋20L)

販売場所

美唄市農協、峰延農協、
イザワ種苗園、
生ごみ堆肥化施設

希望小売価格

400円(1袋単位・税込)

バラ渡し堆肥(1立米単位)

販売場所

生ごみ堆肥化施設

価格

1,000円(1立米単位)

引渡方法

持ち帰り、または配送

※配送の場合は、車一台につき3,000円

事前に
生活環境課
0126-62-3145
まで申し込みが
必要です。

ダンボールでできる!

生ごみの 堆肥化方法

ご家庭で生ごみを堆肥化することにより、ごみの減量化とリサイクルの推進を図ることができます。堆肥化は、コンポスター（土を掘って大きなバケツのようなものを使用する方法）、密閉型堆肥化容器、電動生ごみ処理機、ダンボール等で行うことができます。

用意するもの

材料等はホームセンター等で購入することができます。

容器

- ダンボール1箱（みかん箱等）
- 底を2重にするためのダンボール
- フタ用のダンボール

基材

- ピートモス（20L入り、600円程度）
- もみ殻くん炭（15L入り、600円程度）

道具

- シャベル、ゴム手袋など（混ぜる用）
- 温度計（分解時の温度を確認・100℃計）
- 秤（投入前の生ごみを計量する用）
- 角材、レンガ石（ダンボールを浮かす用）

準備

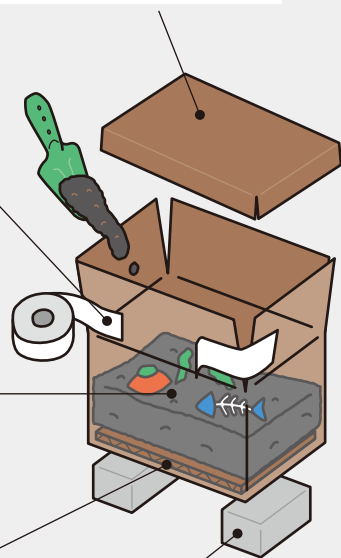
別のダンボールでフタを作る。（防虫、防臭、保温効果もある）

上フタを起し、テープ等でとめて箱を深くする。

基材を箱半分程度入れる。（ピートモス、もみがらくんたんを3:2の割合で混ぜたもの）

底にダンボールをもう1枚敷き、二重にする。

ダンボールを5cm程浮かす。（通気性を良くするため）



堆肥化の進め方

投入する生ごみの量は1日約500g

ダンボールの中に生ごみを細かくして投入し、基材とよく混ぜたら、温度計を中心にさして、ダンボールで作ったフタをする。

投入しない方がいいもの

- ・硬いもの（果物の種、貝殻、とうもろこしの芯など）
- ・バナナ、みかんなどの皮
- ・ペットのフン
- ・塩分が多いもの（漬物など）
- ・食べ物以外の不要物（プラスチック製の袋など）

生ごみ投入開始から1～2週間くらいで、温度が30～40℃台に上昇する。（60℃を超える場合も）

3ヶ月くらい続けたら（塊が多くなったり、基材がべたついたら）投入をやめ、時々混ぜて1～2週間ほどおき、土と混ぜて、さらに1～2ヶ月おくと完成です。

ポイント・コツ

- ダンボールは15℃以上の室内に設置する（雨が当たらないように）。
- 温度が上がらない場合は、生ごみと一緒に使用済み食用油や米ぬか等を入れると上がりやすくなる。
- 野菜よりも魚や肉のほうが温度は上がりやすい。
- 生ごみを入れなくても1日1回は混ぜる。

- 混ぜ方が不十分であったり、水分が多すぎると臭いが強くなることがあります。その場合は、米ぬかの投入やよく混ぜることによって、温度を上げる、投入をやめる、基材を増やすなどして工夫をしてください。

野生動物（熊やキツネ、カラスなど）の誘引を避けるため、匂いの強いものを入れない、屋外に置かないなど、管理には十分注意してください。